

NAKAYO

環境報告書2014

全員行動します！
環境に優しい商品創りと
きれいな地球保全にむけて

株式会社ナカヨ

RE BIRTH
70th
1944
2014
NAKAYO

1. 目次

1. 目次	P1
・「環境報告書2014」編集にあたって	
2. 経営者のご挨拶	P2
・環境活動への取り組み・環境活動重点テーマ	
3. 会社概要	P3
・会社概要・主な事業内容・業績報告	
4. 環境マネジメントシステム	P4
・審査機関・適用範囲・環境管理体制・環境活動の歩み	
5. 環境活動計画と実績	P5
・2013年度活動実績と2014年度活動目標	
6. 事業活動における環境負荷情報（2013年度実績）	P5
・資源投入量と環境への排出量概況	
7. エコマインド&マネジメント	P6~P7
・環境会計・ISO14001認証継続・法規制等の順守	
・主な環境に関する資格保有者数・環境監査の実施・環境教育	
8. エコプロダクト	P7~P8
・環境に配慮した製品の開発・グリーン調達	
9. エコファクトリー	P8~P11
・地球温暖化防止（電力使用量削減）・地球温暖化防止（二酸化炭素排出量の推移）	
・廃棄物削減<2013年度 廃棄物総排出量推移>	
・化学物質におけるリスク管理・節水	
10. ステークホルダーとの共生	P11
・環境報告書による情報発信	
・環境管理活動を通じた社会への貢献	
11. 環境管理データ	P12~13
・2013年度測定環境管理データ	
環境報告書2014についてご意見、ご感想をお聞かせください	P14

「環境報告書2014」編集にあたって

株式会社ナカヨは、弊社の環境に対する取り組みをご理解していただくために「環境報告書2014」を発行致しました。

本報告書は多くのステークホルダーの皆様有意義な情報を提供するために環境省「環境報告ガイドライン」を参考に、弊社独自の活動を掲載し、企業の特徴が反映された報告書を目指しました。

- ・対象範囲：株式会社ナカヨ 管理統括本部、業務本部、開発推進本部。
(営業統括本部、技術戦略本部、連結・非連結子会社および関連会社は対象範囲に含みません。)
- ・対象期間：本報告書は2013年4月1日から2014年3月31日の環境的側面に関するデータおよび情報を中心にまとめました。
- ・発行日：2014年12月16日（前回発行2013年11月）
- ・参考にした文献：環境省発行「環境報告ガイドライン（2007年版）」
- ・次回報告：2015年11月予定
- ・(株)ナカヨ環境報告書：http://www.nyc.co.jp/company/environment/environment_report.html
- ・免責事項：この報告書には、ナカヨの将来についての計画や業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みを示したものです。

「環境報告書2014」に関するお問い合わせ先

株式会社ナカヨ
業務本部 ISOセンター
E-Mail：isocenter@nyc.co.jp
F A X：027-253-1122

2. 経営者のご挨拶

代表取締役社長兼CEO

谷本 佳己



ナカヨグループは、今年、創立70周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様方のご支援の賜物であり、深く感謝いたします。この節目の年にあたり、地球環境問題への対応も、より一層、強化したいと考えております。当社では、従来より、環境対策を社会的責任の一つとして捉え、多方面に亘る取り組みをして参りました。恵まれた自然環境の地にある生産拠点では、従来から、その環境との調和を図るべく、騒音、振動、排水、産業廃棄物、CO₂の削減などの問題に積極的に取り組み、法令や規制の改定にも対応しております。また、生産工程の省エネルギーを進めるだけでなく、

そこで生産される製品の省資源、省エネルギー化、有害化学物質の削減等にも努めてまいりました。近年における世界的な環境問題に関する機運の高まりを受け、さらに、これらの取り組みの強化を図っているところです。

地球環境問題に関しては、幅広い取り組みが必要とされております。まず、温暖化防止、大気・水質保全、廃棄物、化学物質等に関する法令、規制を遵守することはもちろんですが、「CO₂の削減」「省電力、省エネルギー、省資源（リデュース）」「廃棄物削減、資源の有効利用（リユース、リサイクル）」「生物多様性、自然環境の保護」など、取り組みの一層の高度化、多様化が求められております。

一方、当社グループが関わっているICT事業は、資源・エネルギーを消費する反面、その節約にも貢献できる事業でもあり、弊社では、環境負荷の低減に役立つ商品、サービスの開発も重要なテーマと考え、今後とも、それに即した製品開発に努める所存です。

また、クリーンルームを目的に新築した製造棟では、静電気対策・全館LED照明・省エネ空調を採用しており、省エネルギー化を生産性向上を同時に実現しております。更に、既存の製造棟においても、LED照明化、設備更改を進めるなど、エコファクトリー化を推進するとともに、部品類等については、サプライヤーの協力のもと、有害物質の調査ならびに含有禁止物質への対応も進めます。

当社グループは、以上のような活動を通じ、今後とも、これら多くの地球環境問題に関する課題に積極的に取り組み、エコオフィス、エコファクトリーを目指すとともに、皆様に満足して頂けるようなエコ商品やエコサービスの開発を進めるなど、広範な環境活動を展開して行く所存です。

本報告書は、環境に対する当社グループの具体的な取り組みを、お客様、お取引先様、株主様はじめ、広く、社会の皆様にご公開し、当社グループの活動にご理解を頂くことを目的にしております。皆様方から、忌憚のないご意見、ご提案を頂ければ幸いです。

環境活動への取り組み

企業が持続可能な発展を遂げるためには、コンプライアンス(法令順守)や人権、環境保全、経営利益など、企業を取り巻く側面について、ステークホルダーの要請に応え、信頼を得ることが必要です。

ナカヨでは、こうしたビジョンをより計画的に事業活動に取り組むために、法的要求事項、その他の要求事項、環境方針、環境影響評価全般にわたる「全ての環境側面」とそれを改善する具体的活動実施項目の整合を図り、実施項目の漏れを無くしています。

環境活動重点テーマ

<環境方針スローガン>

「全員行動します！環境に優しい商品創りと きれいな地球保全にむけて」

<重点テーマ>

- ① ゼロエミッション計画の推進
- ② 環境適合製品の拡大
- ③ 産業廃棄物の総排出量抑制
- ④ エネルギー使用量削減
- ⑤ 環境関連事故リスク低減
- ⑥ 全社員環境活動参画による業務改善/効率向上

3. 会社概要

会社概要

商号 株式会社ナカヨ
設立年月日 昭和19年5月30日
本社所在地 〒371-0853 群馬県前橋市総社町一丁目3番2号
代表者 代表取締役社長 谷本 佳己
事業内容 電気通信機器の製造・販売

平成26年8月1日 商号を株式会社ナカヨ通信機から株式会社ナカヨへ変更致しました。

当社では、通信機器に関連した事業以外にも事業領域を拡大するため、システムインテグレーション事業・環境関連機器製品・医療機器製造・EMS事業の拡大等、新事業に積極的に取り組んでおり、平成26年度、創立70周年を迎え、更なる成長発展を目指すことを目的として商号を変更しました。

主な事業内容（平成26年3月31日現在）

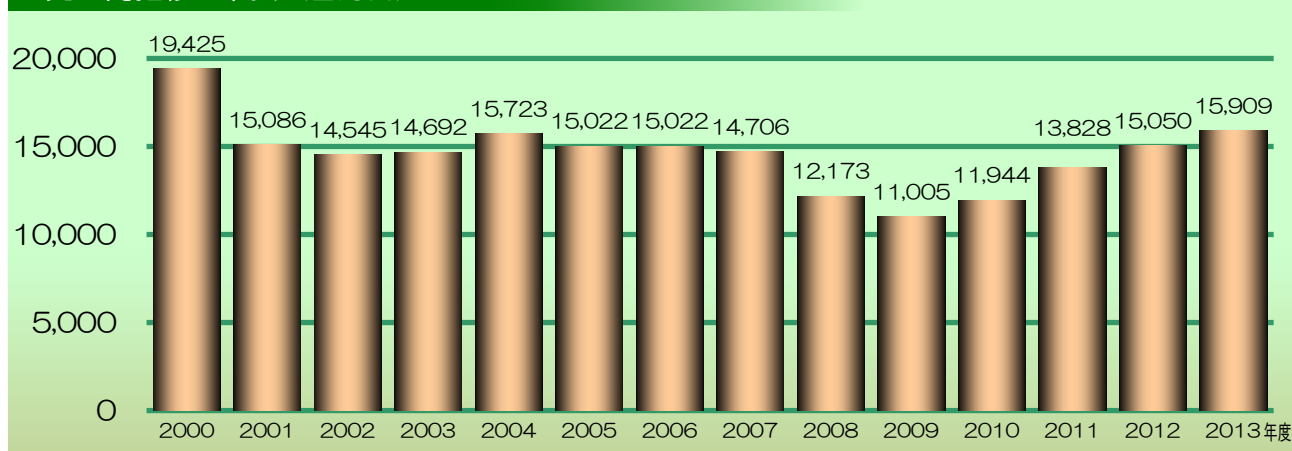
製品区分	主要製品
ワイヤードネットワーク機器	デジタルボタン電話装置(ビジネスホン)、IP電話機、ISDN対応ターミナルアダプタ、構内交換装置、通報装置、DSU・ONU関連機器等
ワイヤレスネットワーク機器	事業所用コードレス電話機、アナログコードレス電話機、無線モジュール等
サービス& サポート	保守・工事、EMS事業、ソフト開発、プレス用金型、モールド用金型等

業績報告

平成26年3月期

資本金 4,909百万円 (東証1部上場)
従業員数 単独: 610名 (連結: 752名)
売上高 単独: 15,909百万円 (連結: 18,961百万円)
当期純利益 734百万円 (連結: 860百万円)
設備投資額 2,315百万円
研究開発費 952百万円

売上高推移：単独（百万円）



4. 環境マネジメントシステム

審査機関

株式会社 日本環境認証機構 ISO14001:2004・JISQ14001:2004
登録番号 EC98J1080

適用範囲

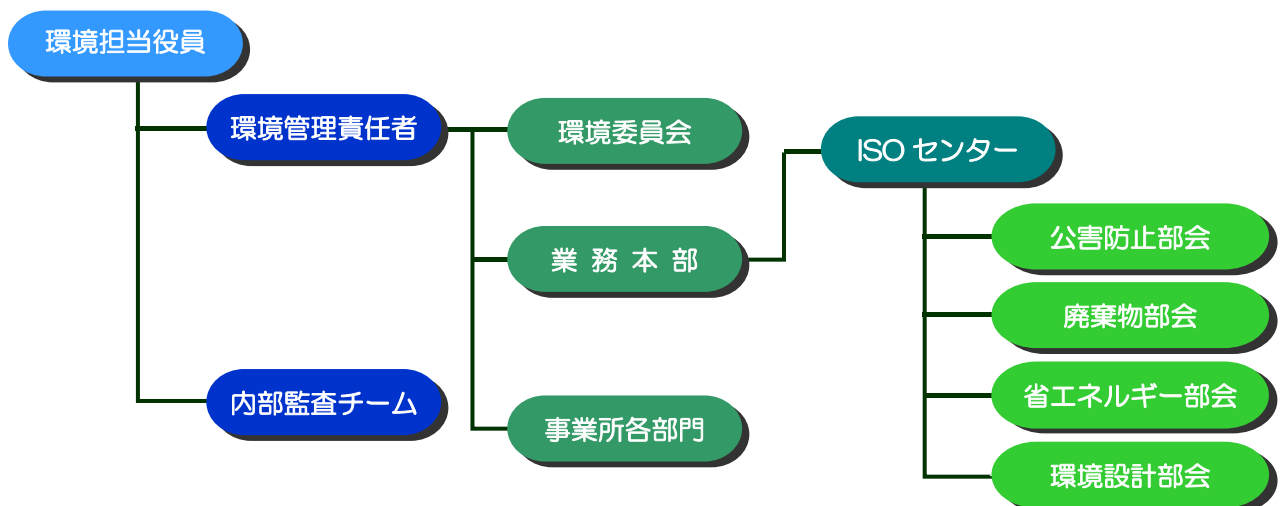
業務本部前橋工場
群馬県前橋市総社町 1-3-2



業務本部群馬工場
群馬県前橋市東大室町 165



環境管理体制



環境活動の歩み

2013年 10月	ISO14001 認証登録更新 (5回目)
2013年 1月	形質変更時要届出区域 (ふっ素及びその化合物) に指定
2012年 7月	有害物質使用特定施設廃止 (前橋工場) [土壌調査実施]
2012年 5月	暖房用ボイラー廃止 (群馬工場)
2009年 3月	廃 PCB (コンデンサ3台) 廃棄
2007年 3月, 12月	暖房用ボイラー廃止 (前橋工場 2基)
2005年 10月	ISO14001:2004版認証へ移行
2005年 9月	環境報告書発行開始
2005年 1月	ナカヨグリーン調達ガイドライン発行
2002年 5月	電気メッキ施設廃止
2001年 10月	ISO14001 初回更新審査合格
1998年 10月	ISO14001 認証取得 認証機関: (株)日本環境認証機構
1997年 10月	トリクロロエチレン脱脂槽を水系洗浄槽へ転換
1997年 4月	ISO14001 取得準備開始
1993年 12月	環境防災センター発足
1973年	公害防止管理組織発足

5. 環境活動計画と実績

2013年度活動実績と2014年度活動目標

区分	目的	2013年度目標	2013年度実績	判定	関連ページ	2014年度目標
ゼロエミッション	最終埋め立て処分率 0.3%以下	0.3%以下	0.19%	○	P9	0.3%以下維持
環境適合製品の拡大	適合製品95%以上	製品の適合率 95%以上	97.1%	○	P7	製品の適合率 95%以上維持
産業廃棄物 総排出量削減	廃棄物総排出量を 1998年度比50%以上削減	50%以上	38.9% ※1	×	P9	40%以上
電力使用量削減	2013年度までに電力使用量 を1990年度比14%削減	14%	20.3%	○	P8	エネルギー原単位改善率 年平均1% ※3
順法	事故リスク低減	自主基準値内 管理	自主基準値 超過 ※2	×	P12 ~13	事故リスク低減 自主基準値内管理

※1：詳細はP9を参照。2014年度目標は、製品構成の変化と売上げ増加を見据え、目標を40%に変更致します。

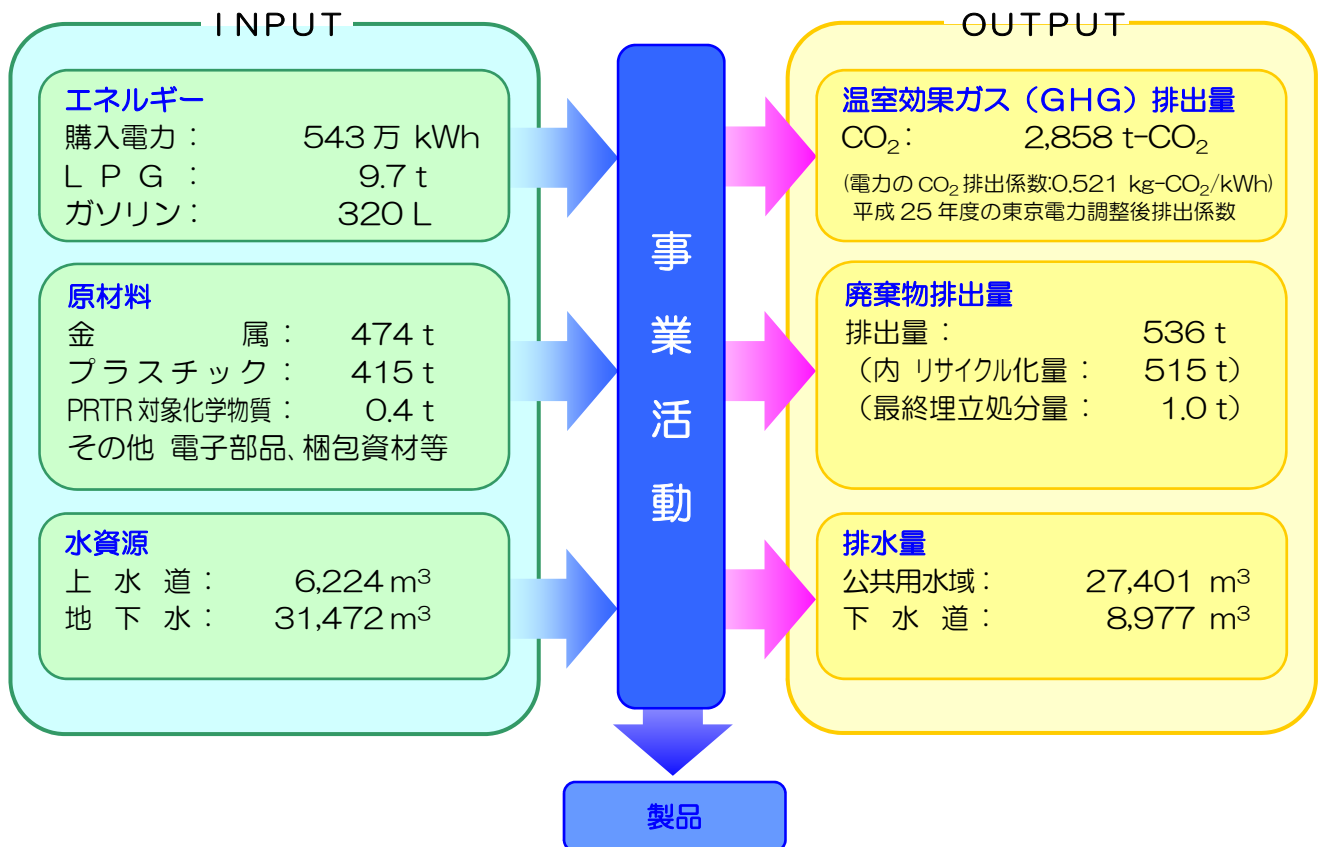
※2：法規制等の順守状況はP12~13の環境管理データをご参照下さい。自主基準値超過の内容は、P10の「群馬工場（東大室）の排水水質自主基準値超過について」を参照願います。

※3：電力使用量削減の活動は、2014年度よりエネルギー原単位改善率年平均1%へ変更致します。

6. 事業活動における環境負荷情報

(2013年度実績)

資源投入量と環境への排出量概況



※ ガソリンは構内フォークリフト（1台）にて使用のもの

7. エコマインド&マネジメント

環境会計（コスト及び経済効果）

マテリアルフローコスト会計(MFCA)の取組みで、エネルギー、廃棄物の削減とロスコストの削減を図っています。

	項目	費用(単位:千円)	主な内容
コスト	環境適合設計	214,730	製品の環境適合設計業務
	廃棄物処理委託料金	10,729	廃棄物収集運搬・処分委託料金
	その他費用	147,781	環境活動人件費・環境関連設備・環境測定費用
	合計金額	373,240	

	項目	効果額(単位:千円)	主な内容
経済効果	廃棄物リサイクル効果	11,883	廃プリント基板等 金属回収、プラスチック有価売却
	省エネ効果	164	照明のLED化
	廃棄物処理費低減	4,320	廃棄物分別、廃棄物減量
	合計金額	16,367	

ISO14001 認証継続

株式会社ナカヨは、国際規格であるISO14001に基づいた環境マネジメントシステムの認証を1998年10月に取得し、以降5度の更新審査(3年更新)で認証を継続しています。

法規制等の順守

環境保全のため、法律や条例よりも厳しい自主基準値を定め、定期的な測定や環境保全設備の維持管理によって環境汚染の防止を図っています。水質(工場排水、下水)、騒音(機械プレス、空気圧縮機及び送風機、合成樹脂射出成形機)、振動(機械プレス、圧縮機、合成樹脂射出成形機、送風機)、悪臭、地下水において、一部を除き自主基準値内となっています。(P12~13環境管理データ参照)

主な環境に関する資格保有者数

資格名称	必要 人員	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
水質関係公害防止管理者	0	4	4	4	4
大気関係公害防止管理者	0	0	0	0	0
騒音関係公害防止管理者	1	2	2	2	2
振動関係公害防止管理者	1	3	3	3	3
特別管理産業廃棄物管理責任者	2	13	12	12	12
危険物保安監督者	1	12	12	12	12
毒物劇物取扱責任者	0	4	4	4	4
エネルギー管理員	1	3	3	3	3
電気主任技術者	1	2	2	2	2

株式会社ナカヨは、環境関連の資格取得計画を立てて資格取得の推進、資格保有者の維持に努めています。2012年度に実施した、表面処理施設等の廃止に伴い、水質関係公害防止管理者・毒物劇物取扱責任者の必要人数が0人となりました。

環境監査の実施

内部監査

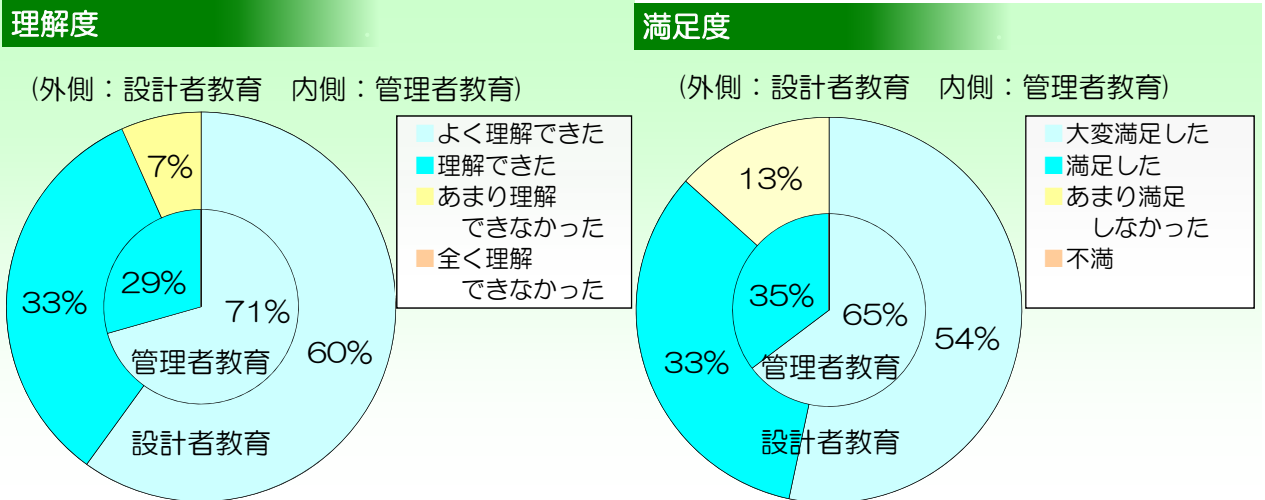
専門の教育を受けた「内部監査員」が、ISO14001の要求事項や順法の実施状況等の適合性確認や、活動の有効性と継続的改善が機能していることを判定します。内部監査で指摘された不具合は一定期間内に是正し、環境管理の向上に結びつけています。

審査機関による審査

毎年1回の、外部の審査機関による定期審査、3年に1回の更新審査を受査し、客観的な審査で、総合的評価を受け環境マネジメントシステムの改善を図っています。

環境教育

環境管理活動は、全員参加が不可欠であることから、毎年階層別教育を実施しています。教育後、全員に有効性確認シートによるアンケートをとり、一人一人に合ったフォローアップを実施し、理解度を深めています。



主な教育内容

- 管理者教育：
 - ・2012年度の活動実績と2013年度環境活動の具体的取り組み
 - ・環境動向と我が社の取り組み、廃棄物処理法、省エネルギー対策等 について
- 設計者教育：
 - ・環境適合設計と製品アセスメント、弊社グリーン調達ガイドライン等について
- 一般社員教育：
 - ・環境方針とスローガン、自職場の環境活動、私の環境活動

※各職場統括者である管理者と、製品の生みの親である設計者には、一般社員とは別に環境に関する専門教育を実施し、それぞれの階層での環境活動をより効果的にしています。

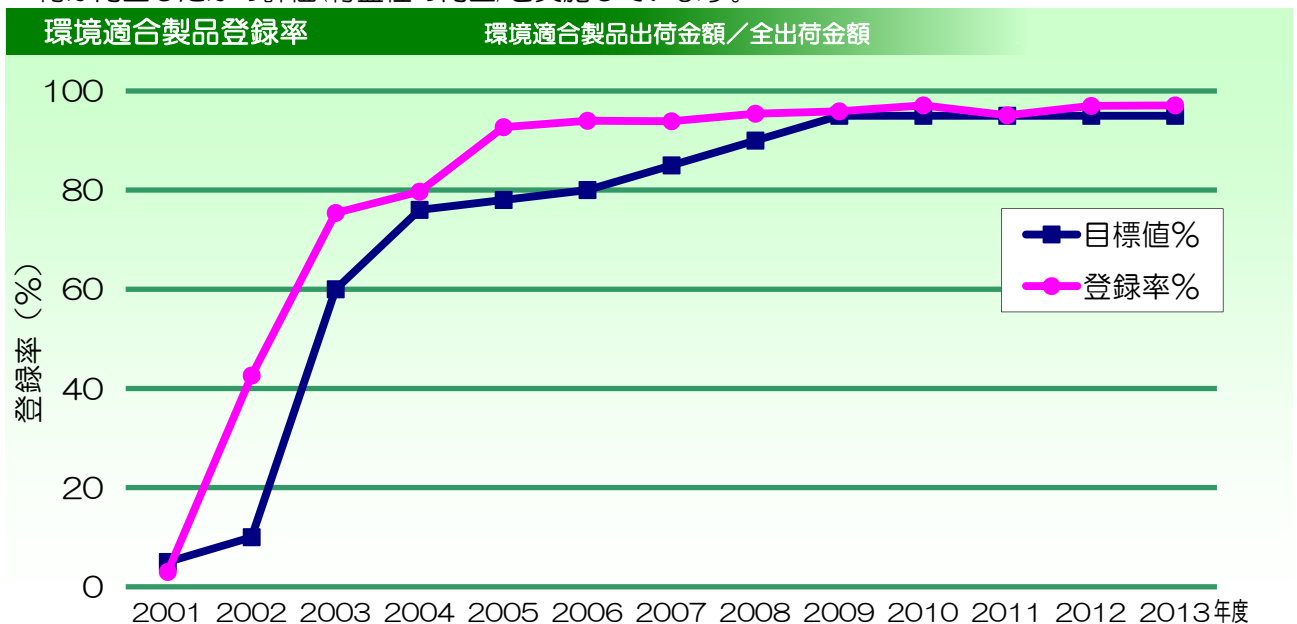
8. エコプロダクツ

環境に配慮した製品の開発

新製品は環境適合100%。既存製品を含め適合率95%を目標として推進しています。特にライフサイクルの各段階で製品が環境に与える生涯環境負荷ができるだけ小さくなるように環境適合設計アセスメントを取り入れています。

環境適合アセスメント

製品開発段階からライフサイクルアセスメントを考慮し、環境負荷の少ない製品づくりを行っています。特にリデュース（減量化、省エネルギー、長寿命化）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化、分解性向上）、環境保全性（無害化、他）などを考慮した製品を開発しています。また従来製品より何が向上したかの評価（有益性の向上）を実施しています。



グリーン調達

環境に配慮した製品をお客様にお届けするために、環境負荷の少ない素材や部品を調達しています。「ナカヨグリーン調達ガイドライン」(初版制定2005.1.25)に基づき、グローバルスタンダードとなっているRoHS禁止物質をはじめ、有害化学物質の不含有化を推進しています。

調達品に関する調査

区分	範囲	頻度	内容
取引先調査	全ての取引先	新規取引開始時	・ISO14001または同等システム(EA21等)の認証取得または認証取得計画の調査
調達品調査	原材料、部品 半完成品、完成品	新規部品採用時	・納入製品に含有する化学物質の調査と禁止化学物質不含有保証取得

9. エコファクトリー

地球温暖化防止（電力使用量削減）

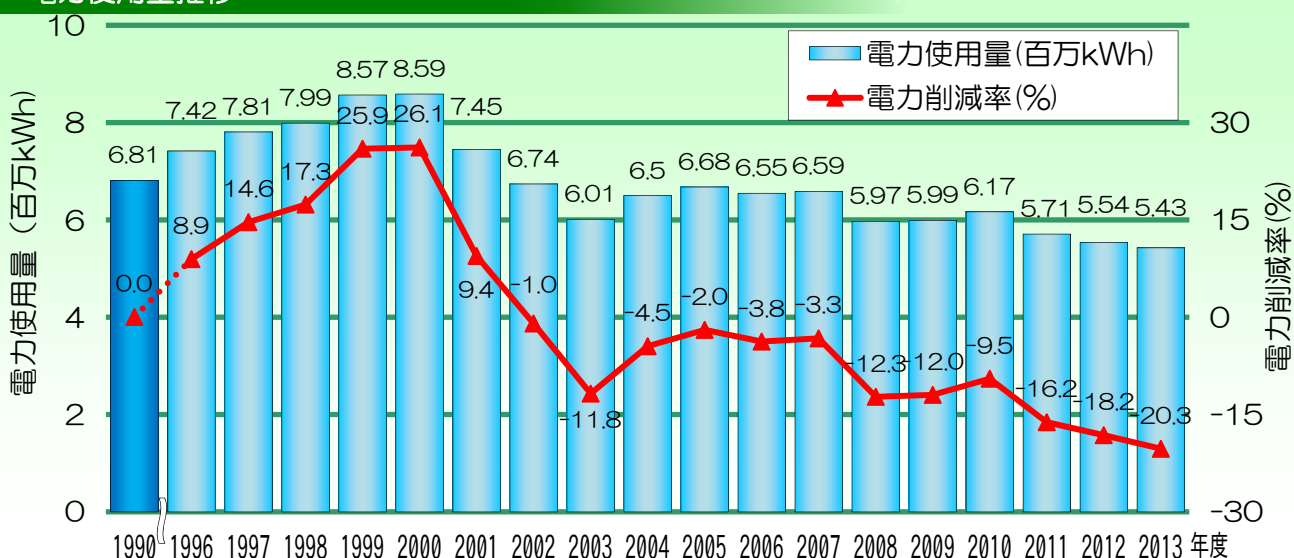
2013年度は、群馬工場（東大室町）2Fの照明をLEDに変更し、更なる電力削減を行いました。

また、工場内の照明やOA機器の省エネを目的に、巡回を行っております。

群馬工場（東大室町）
2F LED照明化



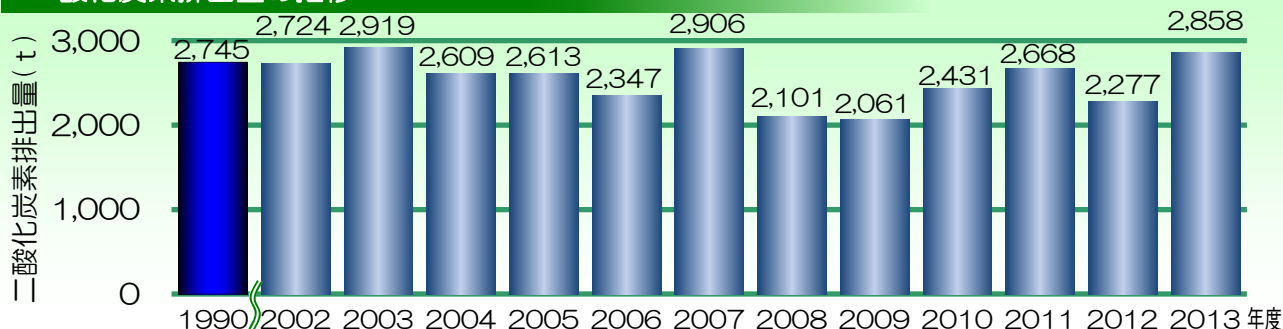
電力使用量推移



地球温暖化防止（二酸化炭素排出量の推移）

購入電力のCO2排出係数が大幅に増加した結果、省エネ活動による電力使用量削減の効果も及ばず、二酸化炭素排出量は大きく増加する事となりました。

二酸化炭素排出量の推移



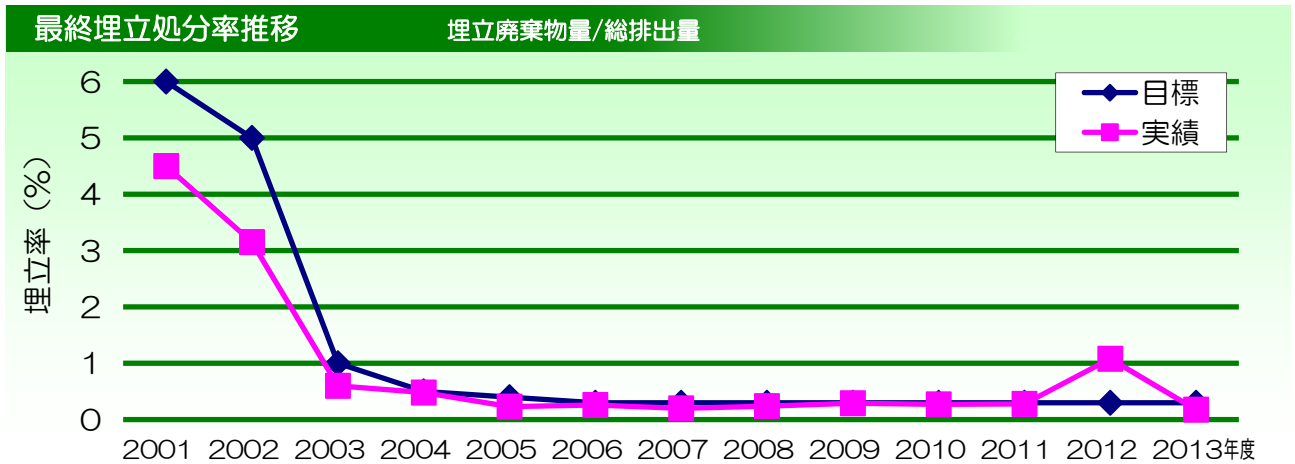
※ 2013年度排出量は、東京電力の2013年度調整後排出係数 0.521 kg-CO₂/kWhにて算出
 ※ 2012年度排出量は、東京電力の2012年度調整後排出係数 0.406 kg-CO₂/kWhにて算出

廃棄物削減

産業廃棄物の内、モールド工場からの廃プラスチック、板金工場からの金属クズ、実装・試験工場から排出される電子部品実装済廃プリント基板については、再生利用や貴金属回収等のリサイクルを実施しています。小型二次電池は「一般社団法人JBRC」にて回収リサイクルを実施しています。

PCB含有のトランスや蛍光灯安定器は厳重に保管管理し、毎年6月に前橋市へ保管状況の報告を行っております。PCB含有の進相用コンデンサについては、2009年にJESCO(日本環境安全事業株式会社：北海道)にて処分を行いました。

最終埋立処分率は、2012年度の排水処理施設廃止に伴うメッキ汚泥等の廃棄により一時的に超過しましたが、2013年度はそのような問題はなく目標を達成しました。



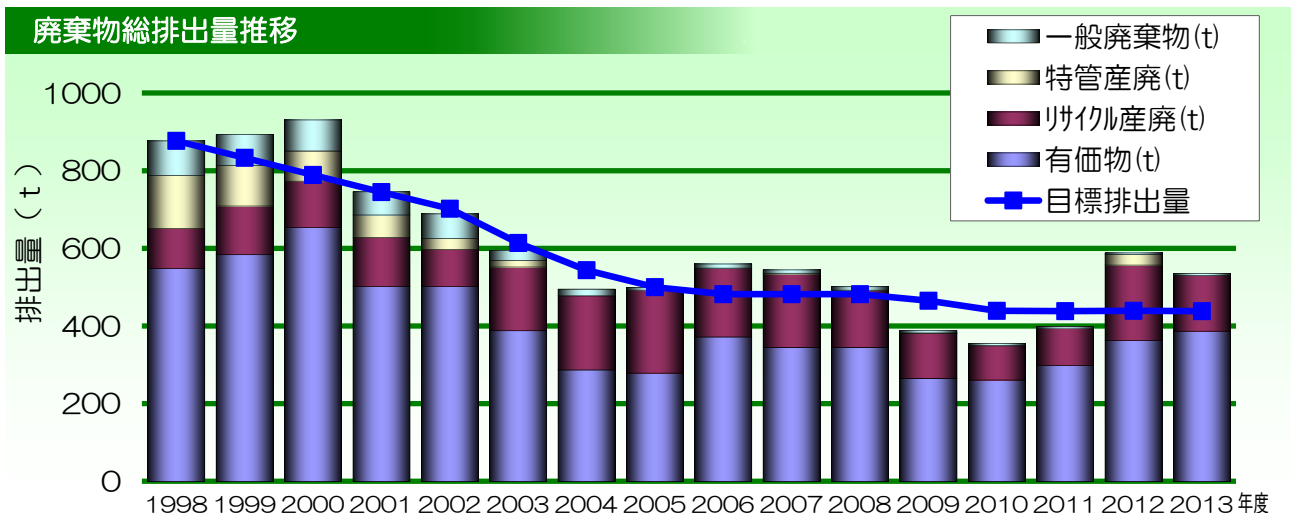
新製造棟建設に伴う廃棄物の増加

新製造棟建設に向けて旧建屋の解体を行いました。当建屋に保管していた物品の廃棄や、売上げ増加に伴う生産関連の廃棄物量が増加し、昨年に引き続き総排出量の目標を超過しました。

(※ 建屋解体に伴う廃棄物は、集計に含みません。)



旧建屋 新製造棟建設のため、旧会議棟と旧食堂棟を解体。



全職場での廃棄物分別排出を徹底実施し、リサイクル化を推進しています。



各職場廃棄物一時保管

各職場内の廃棄物は最終処分方法による区分を基準化し、全社員が分別排出をしています。



全工場廃棄物排出場所

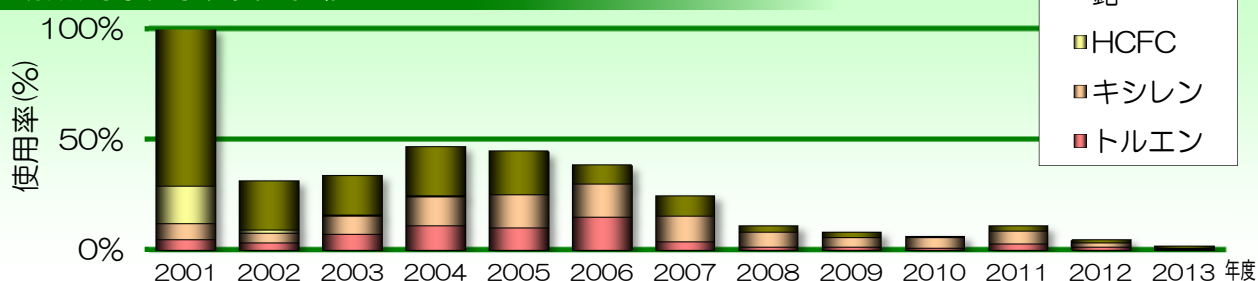
各職場の廃棄物は種類ごとに全てここに排出し、分別によるリサイクル化を促進しています。

化学物質におけるリスク管理

化学物質の削減

プリント基板の面実装化設計の拡大及び鉛フリー化で、鉛入り接続半田量を大幅に削減しました。2005年1月に HCFC 全廃済み。2012年度に行った塗装施設の廃止により、工場内でのトルエンやキシレンの使用量は大幅に削減されました。

削減対象化学物質の推移



緊急事態訓練の実施

有害化学物質の漏洩、流出等を未然に防ぐために、環境への影響が大きい環境特定業務について、緊急事態を想定した訓練を行い環境リスク低減に取り組んでいます。

放電加工機 緊急事態訓練の様相
(漏洩油の拡散防止)



群馬工場（東大室）の排水水質 自主基準値超過について

2013年12月に実施した工場排水測定の結果は、BODが43mg/L、SSが69mg/Lと、県条例はクリアしていますが、自主基準値の超過となりました。

排水水質を改善するため、浄化槽の設備改修と監視体制の強化を行った。

- ① 濾過器の濾材を交換すると共に、濾過器の切換バルブを自動化して逆洗頻度を上げ、濾過能力を長期間維持できるように改修した。
- ② 排水水質の監視を強化するため、測定回数を増加した。定期測定（2回/年：従来の監視体制）に加え、浄化槽管理業者による測定（2回/年）を追加
→4回/年（約3ヶ月毎）の測定による細やかな兆候管理で、迅速に対応できるようにした。

以上の改善により、現在はBOD：2mg/L、SS：2.5mg/Lと自主基準値内であることを確認しました。

(2014年7月の測定結果より)

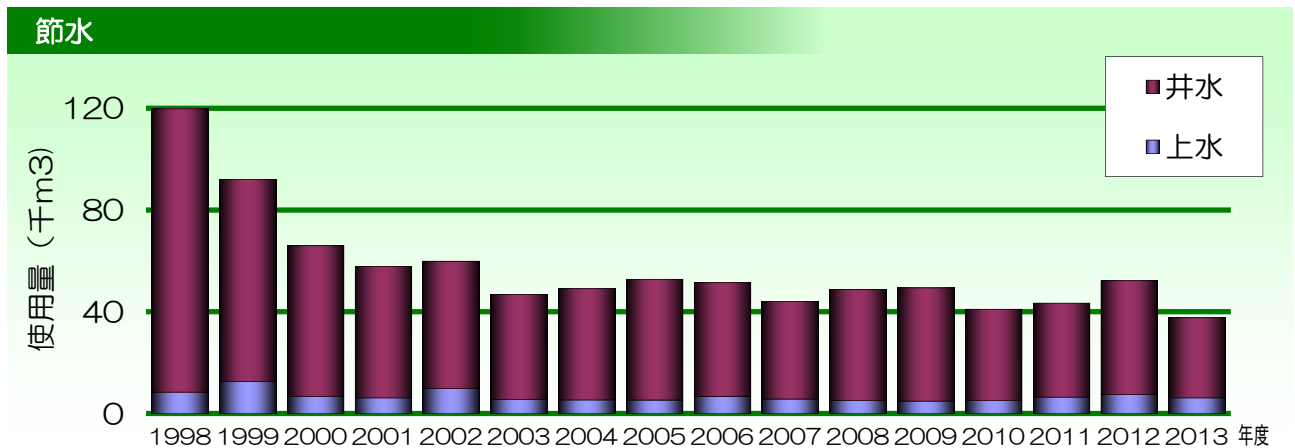


群馬工場（東大室）浄化槽
(地下埋設)

節水

1999 年度より本格的な節水活動を実施。特に老朽化に伴う漏水対策として前橋工場配管の有視化を実施、大幅な節水を実現しました。

2012 年度には、群馬工場の配管有視化を実施しました。



10. ステークホルダーとの共生

環境報告書による情報発信

2005 年度より、年 1 回『環境報告書』を発行し、当社の Web サイトにて情報を開示しています。



環境管理活動を通じた社会への貢献

毎週水曜日をクリーン作戦日として、工場周辺のごみ拾いや除草を実施し、地域の美化に協力しています。



11. 環境管理データ

2013年度測定環境管理データ

水質 前橋工場排水（前橋工場）

項目	単位	法・県条例	自主基準値	測定値
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8~8.6	6.1~8.3	7.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/l)	25	16	10
浮遊物質 (SS)	(mg/l)	50	40	5.0
川瀬川抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	(mg/l)	5	4	<1
溶解性鉄含有量 (Fe)	(mg/l)	10	8	<1
汎-1,2-ジ 4001種)	(mg/l)	0.4	0.2	<0.04

側溝排水（前橋工場）

項目	単位	法・県条例	自主基準値	測定値 (最大)
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8~8.6	6.1~8.3	7.7
生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/l)	25	16	1
浮遊物質 (SS)	(mg/l)	50	40	7.6
川瀬川抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	(mg/l)	5	4	<1
溶解性鉄含有量 (Fe)	(mg/l)	10	8	<1
汎-1,2-ジ 4001種)	(mg/l)	0.4	0.2	<0.04

下水(前橋工場)

項目	単位	法・県条例	自主基準値	測定値 (最大)
水素イオン濃度 (pH)	-	5~9	5~9	7.6~8.8
生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/l)	600	480	320
浮遊物質 (SS)	(mg/l)	600	480	160
川瀬川抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	(mg/l)	5	4	1.0
川瀬川抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	(mg/l)	30	24	18.0
窒素含有量 (T-N)	(mg/l)	240	192	86
リン含有量 (T-P)	(mg/l)	32	25.6	7
ヨウ素消費量	(mg/l)	220	176	51
汎-1,2-ジ 4001種)	(mg/l)	0.4	0.2	<0.04

工場排水(群馬工場)

(測定値が自主基準値を超過している原因は、P10 群馬工場 (東大室) の排水水質 自主基準値超過について を参照)

項目	単位	法・県条例/市協定基準	自主基準値	測定値 (最大)
水素イオン濃度 (pH)	-	5.8~8.6 / 5.8~8.6	5.8~8.6	6.8~7.2
生物化学的酸素要求量 (BOD)	(mg/l)	60 / 20	20	43
浮遊物質 (SS)	(mg/l)	70 / 10	10	69
川瀬川抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	(mg/l)	5 / 3	3	<1
川瀬川抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	(mg/l)	30 / 3	3	<1

2013年度測定環境管理データ

騒音 前橋工場

区分	単位	法・県条例	自主基準値	測定値(最大)
朝	dB	65	65	56
昼	dB	70	70	56
夕	dB	65	65	56
夜	dB	55	55	54

群馬工場（測定値が自主基準値を超過している原因は、工場騒音によるものではなく、隣接した河川のせせらぎ音および交通騒音によるもの）

区分	単位	法・県条例・市協定基準	自主基準値	測定値(最大)
朝	dB	50	50	50
昼	dB	55	55	57
夕	dB	50	50	51
夜	dB	45	45	49

振動 前橋工場

区分	単位	法・県条例	自主基準値	測定値(最大)
昼	dB	70	49	43
夜	dB	65	49	36

群馬工場

区分	単位	法・県条例・市協定基準	自主基準値	測定値(最大)
昼	dB	65	49	37
夜	dB	55	49	30

悪臭 前橋工場

項目	単位	法・県条例	自主基準値	測定値(最大)
臭気指数(気体)	-	18	18	<10

群馬工場

項目	単位	法・県条例・市協定基準	自主基準値	測定値(最大)
臭気指数(気体)	-	18	18	<10

※前橋市の悪臭基準は2004年10月より臭気指数に変更

環境報告書2014について

ご意見、ご感想をお聞かせください

1. ナカヨの環境活動をどのように評価されましたか？

大変良い 良い 普通 あまり良くない 良くない

上記の理由をお聞かせください

2. この環境報告書をお読みになってどのようにお感じになりましたか？

内容	<input type="checkbox"/> 充実している	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 不足している
ページ数	<input type="checkbox"/> 多い	<input type="checkbox"/> 適当	<input type="checkbox"/> 少ない
デザイン	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い
分かり易さ	<input type="checkbox"/> 分かり易い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分かりにくい

3. もっとも関心をもたれた記事とその理由をお聞かせ下さい

4. 当社の環境保全活動についてどのようにお感じになりましたか

大変評価できる 評価できる 普通 評価できない

5. この環境報告書をどのようなお立場でお読みにになりましたか？

お客様 新聞 政府・行政機関 研究・教育関係 報道関係
環境NGO・NPO 株主・投資家 グループ企業 その他

6. この環境報告書を何でお知りになりましたか？

展示会 新聞 雑誌 当社から送付 当社ホームページ

7. この環境報告書全体についてご意見・ご感想がございましたらご記入ください

ご協力ありがとうございました。ご意見は下記アドレスにメールまたはFAX、郵便でお送り下さいますようお願い申し上げます

株式会社ナカヨ

住 所：〒371-0853 群馬県前橋市総社町 1-3-2

担 当：業務本部ISOセンター

E-Mail：isocenter@nyc.co.jp

F A X：027-253-1122

差し支えなければ下記欄にご記入ください

(本情報はナカヨ環境マネジメントシステム向上のために使用し、他の用途には使用いたしません)

お名前： _____ 年齢： _____ 歳 性別： 男性 女性

住 所： _____

勤務先： _____

連絡先電話： _____ e-mail： _____